



## 新年を迎えて

一般社団法人 日本トイレ協会  
会長 高橋 志保彦

新年明けましておめでとうございます。

昨年は会員皆様のご尽力で大変充実した年でした。第33回全国トイレシンポジウムは山本実行委員長はじめ実行委員会のご尽力で有意義な内容でした。シンガポールのジャック・シムさんと呼び世界のトイレ状況をお話し願いました。中国との交流もありました。いま中国では3年前に習近平主席が「トイレ革命」を発し、トイレ整備が盛んです

また、グッドトイレ推進運動もマークの選定までこぎつけ、これからはいかに実践に移すかということになりました。メンテナンス研究会、ノーマライゼーション研究会、トイレ文化研究会の各研究会は質の高い、現状の問題点を決める活動を続けました。今年はその研究成果をいかに活かすかに期待がかかります。緊急課題であった災害用トイレの備蓄に関する調査も行い、メディアも注目しています。国際交流も地道に行い成果も期待されます。

今年には想像と創造の年にしたいと思います。今世界で何が必要であるかを想像し、それを創造して行けるよう、善をもとにした知力と培われた技術をもって世の中に貢献していくよう、私たち一人一人が努力したいと思います。

今世界ではおかしなポピュリズムが台頭し、抑制の理性や謙譲の美德がないがしろにされ、大衆には分かりやすいが危うい自己中心主義の悪風が吹き始めています。この自己中心主義やお金だけの価値を求める拝金主義や宗教的対立を越えてトイレ文化の尊さを示していきたいと思います。

摂取と排泄は言うまでもなく生存の基軸。食に関する国際間の調整はTPPや二国間協定で真剣に扱われています。しかし排泄に関しては全くないがしろにされ何の取り決めもありません。そろそろ国際基準を提示できるよう始動したいと考えます。私たち日本トイレ協会がこれまで33年間で蓄積した知識と技術を、世界の民族、文化、技術、財政等の特性を考慮して、慎重さをもってまとめ発信していきたいと考えます。



## 1. テーマ 誰もが楽しく歩けるまちへー「まちなかトイレ」を考える

ートイレ先進都市ヨコハマからの発信ー

## 2. 開催日時 平成29年11月18日(土)

9:00 受付、9:30 開演、17:50 閉会

## 3. 会場

- ・横浜市旭公会堂
- ・グッドトイレ選奨の展示は、旭公会堂ロビーにイーゼルを設置してパネル展示(開会～17:00)
- ・企業展示は、旭公会堂ロビーにて展示(開会～17:00)
- ・日本初の公同トイレの模型展示は旭公会堂ロビーにて展示(開会～17:00)
- ・交流会は旭公会堂の1号2号会議室にてケータリングで開催

## 4. 後援・協賛

○後援 経済産業省、国土交通省、国土交通省観光庁、横浜市

日本科学未来館、(一社)日本建築学会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本医療福祉設備協会、都市環境デザイン会議、(一社)日本医療福祉建築協会、(公社)国際観光施設協会、(一財)自然公園財団、(一社)日本福祉のまちづくり学会、全国管工事業協同組合連合会、NPO給排水設備研究会、(一社)日本能率協会、NPO法人地域交流センター、(一社)廃棄物資源循環学会、NPO法人横浜プランナーズネットワーク、NPO法人横浜ジェントルタウン倶楽部、NPO法人横浜シティガイド協会(順不同)

○協賛 TOTO株式会社、株式会社LIXIL、(一社)日本レストルーム工業会、日野興業株式会社、株式会社総合サービス、日本カルミック株式会社、株式会社アメニティ、株式会社井戸屋、湘南ステーションビル株式会社、櫻木神社、株式会社シミズオクト、YAMATO-NB株式会社、無臭元工業株式会社、株式会社アルボース、コマニー株式会社、アメニティ(順不同)

## 5. 参加者

- ・シンポジウム 216名(うちスタッフおよび登壇者42名)
- ・交流会 47名(うちスタッフおよび登壇者27名)

## 6. プログラム

9:00	受付開始
9:30	開会挨拶 一般社団法人日本トイレ協会 山本耕平(シンポジウム実行委員長) 横浜市 坂和伸賢氏(横浜市技監・建築局長)
9:40	基調講演 高橋志保彦氏 (一般社団法人日本トイレ協会会長、建築家、都市デザイナー) 「横浜のまちづくりとトイレ」
10:30	特別講演 (Mr. Jack Sim 世界トイレ機構ー World Toilet Organization (WTO)) 「世界のトイレの最新事情」 (通訳:長島キャサリン氏(地域計画家、横浜市立大学講師))
11:10	「グッドトイレ選奨」応募作品のプレゼンテーション
11:40	特別プログラム 子どもたちへ、トイレのメッセージソング『あしたトイレにいこう』

	唄：サトミツ&ザ・トイレッツ
12:00	昼食・休憩
13:00	セッション1：トイレ利用者からの「まちなかトイレ」の現状と課題
	コーディネーター：川内美彦氏（日本トイレ協会運営委員 東洋大学教授） <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーの視点から 岡村道夫氏（NPO法人横濱ジェントルタウン倶楽部）</li> <li>・インバウンド観光客とトイレ 永田洋水氏（神奈川SGGクラブ）</li> <li>・LGBTにやさしいトイレとは 三橋順子氏（性社会・文化史研究者）</li> <li>・子連れ外出とまちなかトイレ 今井幸子氏（つるみ“ままっぶ”を作る会）</li> </ul>
15:00	休憩
15:20	セッション2：設置・管理者からの「まちなかトイレ」の現状と課題
	コーディネーター：小林純子氏（建築家、日本トイレ協会副会長） <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかトイレ等の環境整備に向けて 小野田吉純氏（横浜市建築局建築指導部担当部長）</li> <li>・パブリックトイレ構想と公民連携を軸とした新たな公共トイレ概念 城山佳胤氏（豊島区政策経営部長）</li> <li>・商業施設のトイレ 塩崎匠氏（㈱相鉄ビルマネジメント横浜営業所係長）</li> <li>・コンビニのトイレ 小松義典氏（名古屋工業大学建築・デザイン工学科准教授）</li> <li>・鉄道駅のトイレ 小杉山祐昌氏（相模鉄道㈱施設部工務課課長代理）</li> </ul>
17:20	総括 鎌田元康氏（日本トイレ協会副会長 東京大学名誉教授）
17:30	閉会
17:40	交流会

#### 7. 日本トイレ協会実行委員・当日スタッフ（25名）

氏名	所属	役割
山本耕平	シンポジウム実行委員長、トイレ協会副会長	全体責任者、進行管理、開会挨拶
高橋志保彦	都市デザイナー、トイレ協会会長	ジャック・シム氏／キャサリンさん対応 基調講演
小林純子	設計事務所ゴンドラ代表、トイレ協会副会長	受付（講師対応）、セッション2コーディネーター
小野田吉純	横浜市建築局建築指導部担当部長	横浜市関係者の対応、セッション2パネリスト
白倉正子	アントイレプランナー代表	総合司会
鎌田元康	トイレ協会副会長、東京大学名誉教授	総括
村上八千世	アクトウェア研究所	グッドトイレ選奨プレゼン司会
浅井佐知子	設計事務所ゴンドラ	グッドトイレ選奨展示采配
新妻普宣	株式会社総合サービス代表取締役社長	展示関係の統括
中森秀二	株式会社LIXIL	展示関係
山戸伸孝	株式会社アメニティ代表取締役	展示関係、サトミツ対応
金子健二	NPO 法人 Check	広報関係、写真、記録
軍記伸一	中日本高速道路㈱東京支社	講師受付、交流会司会
佐竹明雄	トイレ協会会事務局長	協賛団体関係受付
鈴木昇二	株式会社アメニティ	トイレ模型搬出
服部起代子	日本カルミック株式会社	受付
古川智史		受付・案内
湯浅岳大		受付・案内
佐藤以織		受付・案内
木曾真人		受付・案内

石垣 歩	(株)ダイナックス都市環境研究所	全体補助
荒井 美樹		受付
吉村ひとみ		受付
津賀 高幸		パソコン関係
小池 哲司		パソコン関係



世界トイレ機構 (WTO) 創立者  
Mr. Jack Sim の講演



会場受付風景



会場俯瞰



横浜市技監 坂和伸賢氏の挨拶



グッドトイレ選奨掲示



セッションのパネラーの皆様

## 第33回全国トイレシンポジウムを終わって

副会長・シンポジウム実行委員長 山本 耕平



第33回全国トイレシンポジウムは、平成29年11月18日に200余名の参加を得て、横浜市旭公会堂で開催いたしました。最初に、横浜市ならびに旭区役所にいろいろとご協力頂いたことを皆さんに報告しておきます。

さて今年のシンポジウムはいろいろなプログラムを盛り込んで、大いに盛り上がりました。全体のテーマは「まちなかトイレを考える」としました。まちなかトイレとは、日頃われわれがまちの中で使っている公衆トイレ、駅のトイレ、商業施設のトイレなど公共的に利用できるトイレのこと。まちづくりの中でこうしたトイレのネットワークや機能分担を考えようという趣旨で、セッションではトイレの利用者と設置・管理者のそれぞれから課題等を報告し議論しました。

例年のないプログラムの一つとして、11月14日から17日まで、旭区役所ロビーで日本トイレ協会のPRと災害トイレの啓発を兼ねて、横浜市に設置されたと云う日本初の「公同便所」の模型展示を行いました。公同便所は洋風の建築で、日本初の公共トイレといわれています。トイレ協会の初代会長だった西岡秀雄先生が館長時代に大田区立郷土博物館で開催された「トイレの考古学展」のときに制作されたものです。

開催地の横浜はまちづくりの先進都市として知られていますが、公共トイレについても先進的な取り組みを行ってきました。余談ながら、筆者らが日本トイレ協会設立のきっかけとなった「トイレレットピア研究会」を始めたのは、「トイレ革命」がすでに横浜で始まっていることを知ったことによります。その意味でも、横浜はトイレシンポジウムの開催地としてもっともふさわしい都市だと言えるでしょう。

その横浜で、まちづくりと都市デザインの分野で多大な功績を残してきたのが、実は高橋志保彦会長です。高橋会長は横浜の中心の関内地区で、開港広場、馬車道などのデザインの仕事をされ、その業績は高く評価されています。そこで基調講演は高橋会長にお願いしました。横浜の開港から都市の発展の歴史をたどりながら、まちづくりの中でトイレがどう位置づけられてきたかを話していただきました。

また今回は世界トイレ機構（World Toilet Organization = WTO、シンガポール）創設者のジャック・シム氏を招聘いたしました。ジャック・シム氏は多くのスライドを使って「世界のトイレの最前線」について講演し、「日本のトイレ文化を世界に輸出してほしい。日本の高いトイレ文化を知れば、世界の人々のトイレについての認識が大きく変わるだろう。」と締めくくりました。

ジャック・シム氏は、世界トイレ機構は1999年に日本トイレ協会が北九州市で開催した国際トイレシンポジウムがきっかけで創設されたと述べました。筆者もその場所に同席していましたが、当時のトイレ協会は財政的にも人員の面でも国際的な活動にまでウィングを広げる余裕がなかったことから、ジャック・シム氏が「シンガポールで立ち上げることを了解してほしい」と述べ、スウェーデンやベトナムなどの出席者も賛同したことを覚えています。WTOという名称もその場で同意されたもので、ジャック・シム氏の精力的な活動によってWTOは国際トイレサミットを各国で開催し、国連に働きかけて11月19日が「世界トイレの日」に制定されました。

特別プログラムとして、お笑い芸人の佐藤満春さん率いるサトミツ&ザ・トイレッツが、学校でトイレに行けない男の子を励ます「あしたトイレに行こう」をはじめ、生バンドですばらしい演奏を披露してくれました。11月10日のトイレの日に合わせてCDが発売されています。佐藤満春さんはトイレ協会の会員です。

午後のセッションは、川内美彦氏（運営委員、東洋大学教授）と小林純子氏（運営委員、設計事務所 Gondra）それぞれのコーディネートで、利用者と設置・管理者からのまちなかトイレの現状と課題について講演と意見交換を行いました。車いす利用者、外国人、LGBT、子連れママさんの、トイレに求めるニーズは多様でトイレの設計、設置に関係する参加者からは、大いに参考になったという声を多く頂きました。また設置・管理者からの報告では、逆に多様なニーズに対応することの難しさが報告され、二つのセッションはねらい通りにかみ合った議論ができたと思います。

その他、公会堂ロビーでは企業展示も実施いたしました。協賛いただいた企業の皆様、ありがとうございました。グッドトイレ選奨も例年通り実施しましたが、プログラムが多かったため会員のプレゼンテーションセッションを中止させていただきました。

交流会は約50人が参加。初めて参加したという方もいて、会員の親睦を深めるよい機会となりました。締めはいつものように、アロハオエ。西岡先生時代の伝統で、トイレ協会の歌となっています。（㈱ダイナックス都市環境研究所代表取締役）



日本初の公共トイレ（公衆便所）模型  
会場の横浜市旭区役所ロビーに開会前3日間展示



パネルディスカッションの様子



Mr. jack. sim とサトミツ&ザ・トイレッツ



高橋会長・Mr. jack・sim+サトミツ&ザ・トイレッツ



交流会恒例の「アロハオエ」



グッドトイレ選奨受賞者の皆様

【グッドトイレ選奨】 応募11点

＜選奨5点 特別奨1点 アイデア奨1点 入選4点＞

投票者数 130名

審査方法 事前の審査委員（トイレ協会会長、副会長、運営委員、事務局長）の審査と、当日のシンポジウム参加者による投票結果を加味し、総合的に審査を行いました。

■ 選奨

No	タイトル	応募者	概要
1	高速道路休憩施設への健康トイレの導入	中日本高速道路㈱東京支社 山本浩司 伊藤佑治 岩佐育恵 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京㈱ 今井詩織	高速道路休憩施設は、長時間運転による疲労を軽減する役割を担っている。このため、Nexco 中日本では、休憩施設のトイレに運転手の健康状態をチェックするデバイスを整備し、もって交通事故のリスクを減らす取り組み等を実施した。
2	厚木PA（内回り）における女子トイレの待ち行列対策	中日本高速道路㈱東京支社横浜 保全・サービスセンター 岩佐育恵	非常に多くのお客様が利用する厚木PA（内回り）において、女子トイレ内での待ち行列に関する各問題についての対策を行った、今回の対策により、入口からの動線を含めて一方通行のトイレ利用の流れを形成することができ、トイレプースの出入りをスムーズとすることが出来た。
3	気持ちのよいトイレを目指した3つの取り組み	中日本ハイウェイ・メンテナンス 中央株式会社	当社は安全を何よりも優先し、安心・快適な高速道路空間をお届け出来るよう中央高速道路や長野自動車道の補修や清掃といった維持修繕作業を行っております。当社が清掃を担当している休憩施設は上下合わせて30箇所あります。お客様がいつどのサービスエリアのトイレを気持ちよくご利用頂けるよう“清潔・おもてなし・安全”な取り組みについて紹介するものです。
4	世界の衛生環境を改善しよう！「みんなにトイレをプロジェクト」	株式会社 LIXIL 広報部コーポレートレスポンスビリティ推進グループ	安全で清潔なトイレを使えない地域の人々に途上国向け簡易式トイレを寄付し、日本国内で世界の衛生問題への理解を深めるために、社内外の賛同と協力を得たコース・リレーテッド・マーケティング活動の実施と成果
5	オフィストイレの利用実態調査について	コマニー株式会社 高橋未樹子	オフィストイレの便器数は、和便器時代に定められた事務所衛生規則に則って決められることが多いが、洋式化が進む最近では混雑が問題になっている。そこで新たな基準を見出すことを目的とし、オフィストイレの利用実態を調査した結果を報告する。

■ 特別奨

No	タイトル	応募者	概要
1	何でもあるこの時代に使った人の声が届くトイレがある。	ウォレットジャパン株式会社	清潔と快適さに拘り移動式トイレコンテナユニットを開発。水洗トイレをコンテナユニット化した仕様で、設置場所を選ばず障害者や子育て世代向けの多目的トイレも備える。「トイレの美観を気にする女性やお子様を中心に気軽に入れるトイレを提供したい」との思いでお客様目線に立ち開発。至ってシンプルな移動可能な公衆トイレといったイメージですが、屋外トイレでお困りのお客様、関係者から感謝のお声やSNSで拡散して頂くと云う現象が発生しています。笑顔になるトイレのお手伝いをしていきます。

■ アイデア賞

No	タイトル	応募者	概要
1	携帯便座「イケベン」のご紹介	(株)アスタリスク 池邊康子	イタリア（ヨーロッパ）では、清潔に掃除されているのに「便座のないトイレ」が時々あり、日本人女性は大変困ります。それを解決するために開発した小さく畳めて軽量の携帯便座「イケベン」のご紹介です。

■ 入選

No	タイトル	応募者	概要
1	「女性に求められるオフィストイレ」	(株)ユウ・コーポレーション 飛鳥建設(株)一級建築士事務所	オフィスで働く女性にとって、快適で寛ぐことの出来るトイレ空間を目指し、アンケート調査や座談会の実施、施主との緊密にコミュニケーションをとり、「女性に求められるオフィストイレを追求した。
2	高速道路トイレにおける被災時の初動対応としての建物点検タブレットの運用検証	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株) 今井詩織 中日本高速道路株 山本浩司 伊藤佑治 岩佐育恵	大規模災害発生時、建築の専門知識のないスタッフでも建物の安全性・機能性を速やかに判断し、トイレを含めた休憩施設の建物をお客様に開放出来る「建物点検タブレット」を作成し、運用検証を行った。
3	イノベーションを誘発するトイレの創造	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 田口博晃 田島一之 上田明人 前田佳穂	イノベーションを誘発するトイレ・女性研究者にも優しいトイレを主眼に JAXA 全体で改修を実施職員が多い建屋トイレ、利用者が幅広いトイレを主対象とし、選択と集中により高い費用対効果を狙った。改修前後アンケートの結果、不満度が 49%から 4%に改善し、高い効果が得られた。
4	ビッグデータ分析に基づく和式・洋式トイレの選択・利用実態	中日本高速道路(株)東京支社 伊藤佑治 坂巻厚志 山本浩司 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株) 今井詩織	SP/PA の和式・洋式トイレの設置比率の方針を整理するために、全ブースが空いている状況で選んで使われたブースのみを抽出・集計するシステムを開発し、純粋な和式・洋式トイレの選択・利用実態を明らかにした。



グッドトイレ選奨「特別奨」の受賞



グッドトイレ選奨「アイデア奨」の受賞



## 2017年グッドトイレ選奨 講評

運営委員 川内 美彦

11月18日に横浜市旭公会堂で開かれた第33回全国トイレシンポジウムにおいて、グッドトイレ選奨の選考が行われた。

今年は計11作品の応募があり、例年より若干少ない印象があるが、印象に残る作品が多くあり、結果としてグッドトイレ選奨5作品のほか、グッドトイレ特別奨とグッドトイレアイデア奨に各1作品、グッドトイレ入選4作品という結果となった。

グッドトイレ選奨5作品は近年問題となっている和洋便比率についての研究、途上国でのトイレ問題への具体的行動、トイレメンテナンスの工夫、トイレで健康をチェックするデバイスの開発、女子トイレ待ち対策の報告と、いずれも今日のトイレが直面している問題に真摯に取り組んでいた。その取り組み方においても、これは毎年のグッドトイレ選奨に共通した特長であるが、様々な分野から、研究的あるいは実践的な様々な方法によるアプローチがなされ、まさに日本トイレ協会が持つ多様な側面が反映されたものとなっていた。これは、それぞれの立場でトイレに向き合っている人たちが、各々のできる範囲で日々の実践に力を尽くしているということであろう。

こうした各方面での努力は高く評価するが、若干の希望も述べる。この中で2件、データをもとにした研究的な作品があるが、データのとり方が偏っていたり不十分だったりして、研究としてのレベルに達していないものであった。グッドトイレ選奨の質的向上の意味からも、研究は研究として成立する内容を目指していただきたい。

グッドトイレ特別奨は災害時等に力を発揮し、しかも災害用トイレとはいえないほどのクオリティを実現した移動式トイレが選ばれた。時宜にかなった視点と実用化した努力が評価された。

グッドトイレアイデア奨は、海外で便座のないトイレに遭遇した経験をもとに作られた製品で、ちょっとユーモラスな発想やざっくりばらんなプレゼンが好ましかった。

グッドトイレ入選4作品は、和洋トイレの利用実態の調査、災害直後の点検ツールの提案、個別トイレの工夫の報告であったが、どれも評価に値するものではあるが、プレゼン等でもう少し成果を明確に強調されると印象が異なってきたのではないと思われる。質的に一定の水準にあるだけに今後の向上を期待したい。

応募作品はいずれも日常の多忙な業務との兼ね合いの中で作り上げられたものばかりである。その意味で応募者全員のご努力に敬意を表するとともに、会場で投票に参加してくださった方々も含め、関係者全員のご協力に御礼申し上げたい。

(東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科教授)



## シンポジウムを終わって (総括)

副会長 鎌田 元康



今回・第33回の全国トイレシンポジウムは、『誰もが楽しく歩けるまちへ 「まちなかトイレ」を考える』のテーマで、大田区郷土博物館のご厚意で貸し出された、わが国最初の近代公衆トイレであり、1879年から横浜市の63ヵ所に設置された「公同便所」の模型、「グッドトイレ選奨」応募作品のパネル等が展示されたホールでの9時からの受付に始まり、17時30分までの間、横浜市旭公会堂で開催された。

まず、山本耕平副会長(シンポジウム実行委員会委員長)から、公衆トイレの先進

都市とも言える横浜市で、市の後援を得た上でシンポジウムが開催できたこと、開催へ至るまでに多くの方の協力があったことへの感謝が述べられ、次いで坂和伸賢氏（横浜市技監・建築局長）から、全国トイレシンポジウムが横浜で開催されるのは3回目であること、横浜市では超高齢化社会に向け、「健康寿命」日本一を目指しており、本日のシンポジウムで多くのことを学ばせていただきたいという旨の挨拶があった。

基調講演は、横浜市の街づくりに種々協力してきた高橋志保彦会長による『横浜のまちづくりとトイレ』と題したもので、永年横浜市の仕事に携わってきた会長であるだけに、干拓などにより横浜市の様相が変わってきた様子などのスライドを含め、貴重なデータを示しつつ、横浜市がいかにか給排水設備、トイレで先進的であったかを、時にはダジャレも含め述べていただいたが、要約が次ページから示されている。

ジャック・シム氏（世界トイレ機構（WTO）ファウンダー）の特別講演『World Toilets Update』は、逐次訳付きで行われた。同氏の精力的な活動内容に圧倒されたが、映し出されるスライドがあまりに多く、英語が得意でない私にとっては、逐次訳があったにもかかわらず多少消化不良を起こす状況であったのが残念である。ただ、彼がSDGs（持続可能な発展目標）に向けて熱心に取り組んでいること、ユーモアがある話しぶりで人を引きつける能力に長けることを知ることができ、さらには、日本へのメッセージとしてToilet Cultureの輸出に努力せよというメッセージを残してくれたことなどに感謝したい。

恒例のグッドトイレ選奨応募作品のプレゼンテーションは、村上八千世氏（シンポジウム実行委員）の進行で行われた。11件の応募作品のうち、8件のプレゼンターが女性であったことに驚かされたが、シンポジウム終了後の交流会での審査講評、審査結果の内容については、前ページまでに示されている。

午前の最後には、特別プログラムとして、世界初のトイレバンドであるサトミツ&ザ・トイレッツによる子供たちへのトイレのメッセージソング『あしたトイレにいこう』の賑やかな演奏があった。

午後は、「まちなかトイレ」の現状と課題をトイレ利用者、設置・管理者の両視点から考えるセッション2つが行われた。まず、セッション1『トイレ利用者からの「まちなかトイレ」の現状と課題』では、ご自身も車いす利用者である川内美彦運営委員（東洋大学教授）がコーディネーターとなり、やはり車いす利用者である岡村道夫氏（NPO法人横濱ジェントルタウン倶楽部）により『外出はトイレ探し』、インバウンド観光客の通訳を行っている永田洋水氏（神奈川SGGクラブ（神奈川善意通訳者の会））により『ガイドさんのみたトイレ事情』、トランスジェンダーである三橋順子氏（性社会・文化史研究者）により『LGBTにやさしいトイレ』、子育て経験者である今井幸子氏（つるみ“ままっぶ”を作る会）により『「子どもとまちなかを歩くこと」とは』と題した、問題提起を含む講演をしていただいた。

続くセッション2『設置・管理者からの「まちなかトイレ」の現状と課題』では、設計事務所を設立し、多くのトイレの設計に携わってきた小林純子副会長がコーディネーターとなり、行政側の立場から小野田吉純氏（横浜市建築局建築指導部）により『誰もが歩いて楽しくなるまちなかトイレ等>環境の整備・改善プロジェクトについて』と城山佳胤氏（豊島区政策経営部）により『パブリックトイレ構想と公民連携を軸とした新たな公共トイレ概念』、商業施設のトイレ整備に携わっている塩崎 匠氏（株）相鉄ビルマネジメント横浜営業所）により『商業施設のトイレ』、名古屋市を中心にコンビニエンスストアのトイレの在り方を研究しておられる小松義典氏（名古屋工業大学大学院准教授）により『コンビニエンスストアのトイレ』、鉄道会社の施設部にお勤めの小杉山祐昌氏（相模鉄道（株）施設部工務課）により『鉄道駅のトイレについて』と題し、セッション1と同様に問題提起を含む講演をしていただいた。

多くの問題提起がなされ、まとめることは容易ではない。当日の資料集をお持ちでない方には、事務局を通じて購入し、お読みいただくことをお奨めしたい。私が強く印象付けられた内容としては、LGBT全体にトイレの問題があるとするのはおかしいとする三橋氏の考え、多機能トイレでは機能分散を真剣に考えるべきである、コンビニのトイレ活用をさらに進めるべきであるとする提案などがあった。（東京大学名誉教授）



横浜は開港の地だけに西洋文明が入り込み、「もののはじめ」が数多くある。その中で、近代公衆トイレ、近代下水道、上水道も横浜から始まる。関東大震災と第二次世界大戦の空襲という二度の壊滅的被害を受けながらもその都度蘇えり発展をしてきた。

戦後、世界的なうねりである生活者の視点に立つ「都市デザイン urban design」の考え方に立脚した行政を行う先進都市として、1970年代から行政・地域・デザイナーが一体となって「まちづくり」を進め、古いものを大切にしながら新しいものに挑戦する、魅力ある都市に変貌して行き全国の範となっている。

横浜の中心部はその昔、大きな内海になっていて大岡川が注いでいた。ペリーが来航し、日米和親条約締結の地横浜村は半島状でその先に弁天社があった。横浜市歌の作詞者森鷗外が「むかし思えば苦家の煙、ちらりほらりと立てりしところ 今やもも舟もと千舟・・・」とうたったため、貧しそうにイメージされるが結構しっかりした村だったという。その内海は江戸後期に干拓され吉田新田ができていた、開港によって明治初年（1868年）以降近代都市として急速な発展と建築ラッシュとなり、内外の商社、企業が集まり、人が集まり、工夫も多く集まった。当時の社会は横浜に限らず立小便は普通のことだった。しかし外国人にその不潔さとモラルの低さを指摘され、明治4年にはお上からのお咎めが出る。その当時はまだ関内の埋め立てが盛んな時代で、吉田橋から太田町～相生町あたりが整備されていった、町会所の費用により83か所の四斗樽を用いた簡易トイレを設置された。この樽便所＝路傍便所は古くから関西の街には設置されていたもので、江戸はそんなに多くはなかったという。明治5年の警官のおもな業務は「立小便取締り」というから当時の世相を彷彿させる。明治12年（1879）、当時薪炭商だった浅野総一郎が神奈川県から2,000円（現在の約1億円）の融資を受けて所謂わが国最初の近代公衆便所「公同便所」が63か所設置された。浅野は早朝から熱心に維持管理に努め千葉の農家に売り、それにより財を成す。

近代下水道は英人技師R. H. ブラントンの「横浜の下水・道路整備計画」に沿って明治4年（1871）に居留地に陶管の下水道ができる。10年後の明治14年（1881）県の技師三田善太郎が設計した石造りの下水道が関内の日本人街に、明治20年（1887）には煉瓦造の下水道が居留地に敷設された。この卵形管は平坦な埋め立て地を流れる下水を考慮した優れものであった。

近代上水道は明治6年（1873）に初の横浜水道が完成した。当初は相模川の水を木樋で送ったが、後に英人技師M. S. パーマーの設計監督と三田善太郎の尽力で明治20年（1887）に完成する。

戦後は駐留軍により市の中心部は接収され、蒲鉾兵舎が並ぶ様相を呈していた。平沼市政、半井市政時代、戦災復興と工業港湾都市の建設を中心とした都市行政で、市民生活の基盤としての公共公益施設の整備が後手に回っていた。昭和38年（1963）からの飛鳥田市政に於いて昭和40年（1965）新しい都市づくりの構想として「六大事業計画」が出された。

都市の新しい骨格づくりと、生活空間の質的向上で魅力ある都市形成を図り、①都心部強化一楔形から錠型へ（都心商業軸の形成）②金沢地先埋立事業一工業、優れた住宅環境、学校建築③港北ニュータウン建設事業一ニュータウンとしての住宅建設④高速鉄道網整備一公共交通機関（大量輸送）としての地下鉄⑤高速道路網整備一関内地区における高速道路の地下化⑥ベイブリッジの建設一都

市間道路、交通量の分散、ランドマーク的施設 が打ち出されその後 52 年経ってその効果が表れ今の横浜がある。

私もその中の幾つかの設計一道路、広場、公園、水辺の「プロムナード」、地下鉄 1 号線の駅舎等一に携わった。豊かな歩行者空間を創り出すことと、優れた都市景観整備に力を注いだ。

人が近いと思う距離は 200m、楽に歩ける距離は 500mであることを調査で確かめた。関内地区の交通拠点・駅からどの辺り迄歩けるかを想像すればその距離が認識できよう。

排泄の生理現象を我慢できるのは 10 分であることをアンケート調査により分かった。10 分で歩く距離は 800m~1000mである。そうすると 500m~800mおきにトイレがあればよいということがいえる。公共的なトイレとして 3 つの種類を挙げることができる。行政がつくる「公衆トイレ」、デパート、スーパー、ホテル等の商業施設や駅施設の誰でも使える「公開トイレ」、お願いして使わせてもらうコンビニやガソリンスタンド等の「公仕トイレ」である。当然それらは、ユニヴァーサルデザインによるトイレであることが望ましいことは自明の理である。

1985 年に日本トイレ協会が発足したが、当時は横浜市、伊東市、江戸川区などが先進的な自治体であり他の模範となる公衆トイレをつくった。1980 年代、当時の横浜市環境事業局は、総合的な公衆トイレの整備に力を入れ先進的な施設を建設した。谷戸橋、横浜駅西口、関内駅隣のトイレ等々である。日本トイレ協会の「グッドトイレ 10」が授与されたトイレもいくつかある。ブース単体の「爽やかトイレ」も話題となった。また近年民間に維持管理を依頼する公衆トイレのネーミングライツも新横浜西口広場の公衆トイレで採用しモデルにもなっている。中華街では公衆トイレではあるが外観を商店街の協力で地域のアイデンティティとなる中華風のデザインの採用も行ってユニークな表情も見せている。

ただ、どこも外観に比べ内装が 30 年前と変わらず、老朽化も進み、これからのトイレに相応しい内装や設備機器・備品のリフレッシュが必要であろう。

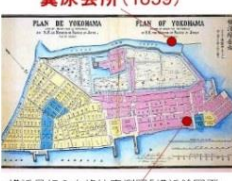
公共トイレは、人々の脳に「あそこにある」というイメージが定着することが大切で、それにより都市生活の「安心」が生み出される。駅のような人が歩き始める起点や、人の集まる公園や広場にはトイレがあり、商店街や大型商業施設には清潔なトイレがあることが都市の魅力と文化度の象徴にもなる。

横浜市は常に国内外の公共トイレの模範であり、先導役であり、トイレ文化の象徴であり続けることを望みエールを送りたい。(建築家、都市デザイナー／神奈川大学名誉教授)

### 開港時のトイレ


#### 糞尿汲除 (出典: 横浜市史稿)

- 開港の年(1859年)石崎源六(神奈川青木町の住人)神奈川奉行所の認許を得て吉田橋関門埋立地続き(現在の吉田橋東詰め附近)に糞尿会所を設置。  
奉行所初め運上戸部牢屋敷等、役所向けの汲除を取扱い、市街の各家からは幾分の料金を徴収⇒繁華の度⇒手回りがね⇒その後各戸各人が農村の者へ依頼汲除
- 明治5(1872)年7月岩崎半蔵(北仲通2丁目(今の4丁目))市中一般の糞尿汲除免許⇒**横浜糞尿汲除会社**
- その後は明治13年(1880)横浜区役所にて取り扱うこととなる。



横浜最初の本格的実測図「横浜輪図面」M.クリベ作成1865年(出典: 開港資料館)

#### 横浜糞尿汲除会所(1872)



吉田橋を過ぎて馬車道方面を見る

### 開港期の横浜—路傍便所—

黒船からの船員、日本人の立小便を嫌う。⇒政府のお咎め「往來端にて立ちばかり小便いたし候儀、甚だ無作法至極外國人に対し候ては、別而恥入候。」

- M4・5年警官の主な任務は放尿取締。(明治5年(1872)鉄道、ガス燈)
- 路傍便所M4年(1871)11月には、町会所の費用を以て町々の辻々に**83箇所**(横浜港小便所分配箇所 M5年(1872)4月7日横浜毎日新聞掲載)  
**4斗樽**を少し埋め粗末な囲い
- その後、橋詰等に瓶を埋め込んだ男女共用の小屋--40数か所(出典: 横浜市史稿)




明治初年居留地付近にて作業中の土工風俗(出典: 横浜市史稿)



明治5年鉄道開通横浜駅(現桜木駅)

### 路傍便所

- 明治4年(1871)8月につくられた地図に
- 明治5年(1872)4月7日の横浜毎日新聞記載(・・・町・丁目名表示)
- 明治4年11月に町会所の費用で新設。83箇所の路傍便所の位置を推定で配置
- 日本人街に50m~100mおきの設置が分る
- 交通頻繁な主要地区には瓶を埋め込み男女共用
- 橋詰に多かった(40数か所)

(作成:高橋 資料出典:横浜開港資料館)

### 日本の公衆便所 歴史

日本の公衆便所のルーツは桃山時代までさかのぼることができる

永禄6年(1563)年に来日、慶長2年(1597)長崎で没したフロイス(ポルトガル人宣教師)が著した「日欧文化比較」に路傍の公衆便所・・・欧州に比べ清潔

#### 路傍便所

江戸時代の路傍便所・・・「守貞漫稿」嘉永7年1854年(喜多川守貞) 京阪路傍諸所尿桶を置いて往来人の尿を棄す

- 江戸は路傍に尿所桶にあるのみ

京阪は多く、江戸は稀だった。江戸八百八町真昼間から誰構うことなく往来の真ん中で行い、とがめるものなし。

cf. 横浜開内に4斗樽の路傍便所が出来たのは明治4年1871年

### 日本のトイレ 歴史 文明開化期のトイレ

#### 横浜の公衆便所/近代公衆トイレ

明治12年(1879)浅野総一郎、神奈川県から2000円(現在の1億円位)の融資を得て、建屋としての公衆便所63箇所をつくる。

便所=便殿=restroomの説  
浴室=湯殿=bathroom

出典:トイレの考古学/大田区立郷土博物館編/東京美術

### 横浜の水道 日本初の近代水道

土地柄井戸水不良 疫病も流行

英国人技師  
ヘリヤー・スパーサー・パーマー

県土木技師  
三田善太郎

明治18年(1885)建設着手  
明治20年(1887)9月完成  
明治20年(1887)10月17日相模川から取水し給水開始

今年1930年

### 横浜の下水道 日本初の近代下水道

#### 日本の近代下水道のはじまり

陶管(1870年)の登場は、都市衛生の向上に大きく貢献した。陶管は、土管に比べて強度が高く、漏水が少ない。また、管径が大きい。このため、下水道の管径は、土管よりも大きくなった。また、陶管は、管径が大きい。このため、下水道の管径は、土管よりも大きくなった。

明治3年(1870)から開内居留地全域に陶管の下水道

レンガ造形管

### 1970年代の横浜市の6大事業

赤文字:高橋参加

- ① 都心部強化事業・・・楔形からかすが型へ、  
◆都心商業軸の形成(●馬車道、伊勢佐木町)  
都心の広がり・・・みなとみらい地区
- ② 金沢地先埋立事業・・・工業、優れた住宅環境、学校建築
- ③ 港北ニュータウン建設事業・・・ニュータウンとしての住宅地建設
- ④ 高速鉄道網整備・・・公共交通機関(大量輸送)としての地下鉄  
◆デザイン委員会参加(上大岡・弘明寺駅設計とモデルプラン)作成
- ⑤ 高速道路網整備・・・関内地区における高速道路の地下化  
◆吉田橋設計(吉田橋付近整備計画)、  
◆元町付近高架部のデザインアドバイス
- ⑥ ベイブリッジの建設・・・都市間道路、交通量の分散、ランドマーク的施設

### 開港広場と山下公園通り (1992年) designer: Takahashi

before → after

●人が集まる場所にはトイレが要る

トイレ

### 1980年代から横浜市は公共トイレ整備の先進地

谷戸橋 公共トイレ 32

このトイレを不正に使用したり、不潔に汚した場合は、関係法令により罰せられることがあります。

045-1671-2555 案内係

■谷戸橋公共トイレ

### 1980年代から横浜市は公共トイレ整備の先進地

■ 関内駅南口公衆トイレ

■ 西の橋公衆トイレ

### 横浜市のネーミングライツ公衆トイレ (新横浜駅西口広場)

■ 新横浜駅西口公衆トイレ

38

### 何処に作るか

■ 人が集まる場所

公園 英国の公園・・・お狩場⇒市民に  
都市の福祉・・・セントラル公園(NY) Olmsted19世紀末  
→フェンウェイパーク(BOSTON)  
日本は明治6年(1873)太政官布告で公園整備  
「東京」:上野、浅草、深川、芝、飛鳥山「大阪」:住吉、浜寺「広島」:厳島、  
「高知」:高知 1903年日比谷公園最初の近代公園

広場 南欧の広場・・・市民広場(シヨール広場)、宗教広場(ドゥオーモ広場)、市場広場  
日本の広場・・・社、社寺境内、川原、橋詰、市場、広小路(火除け地)

道路 歩行者空間、SA、PA

施設 駅(JR、公営、私鉄) 駅構内  
商業施設、公共施設

■ 案に行ける場所(歩行距離)

近いところ・・・200m  
歩いて行けるところ・・・400m～500m

■ よく使う場所。洒落たところ。安心できる場所。

常連・・・記憶やイメージをしている・・・見知る。馴染み  
観光客・・・形状想起、サイン

44

### 街・観光地のトイレの配置と種類

我々できる距離・・・400m～500m(4分～5分)  
都市内に適正配置⇒**トイレマップ**をつくる  
特に身障者には必需品

- **公共トイレ(公衆トイレ)**  
一般的に言う公衆トイレ  
・地方自治体が市民のために税金でつくる  
公共施設。自由に利用。
- **公開トイレ**  
・駅構内、駅ビル、SA・PA、デパート、スーパー、商店街等のトイレ  
・民間がつくるもの。自由に利用
- **公仕トイレ(利用可トイレ)**  
・コンビニ、ガソリンスタンド等のトイレで、民間施設がつくるもの。  
・一般的に利用者はお断りをして使用させてもらう。  
・理解ある経営者の住民へのサービス、社会奉仕の姿勢  
・公仕トイレを積極的に利用させることは崇高な行為  
・施設のアイデンティティにつながる。防犯上も極めて有意義。

歩ける距離

45

コンビニに行けばトイレがある。一市民・行政がバックアップしよう

### 歩行者空間の改善

横浜市中区の歩行者空間・・・駅と歩行距離

### マップにある公衆トイレの位置と駅商業施設のトイレを記入

多機能トイレ  
男女トイレ

駅のトイレ

### 2020年を見据えて

おもてなしトイレ

障がい者、女性、高齢者、に優しく 外国人にも使いやすく  
清潔・・・清掃回数、清掃の質(メンテナンス方法の熟度—原石、床仕上げ)  
1回/日 以上 (商業施設は6=8 回/日)  
日本の心・・・立ち振る舞い、美しさ、心地よさ、臭気対策(物理的—換気、  
花を生ける、消臭、香)

配置計画とサイン計画

到達距離・・・400m～500m  
分かりやすさ・・・あそこにあるというイメージ、象徴、想起(広場、公園、駅、コンビニ)

<サイン>

案内サイン・・・地図表示  
誘導サイン・・・誘導標識(位置の選定)  
定点サイン・・・これがトイレ  
使い方説明・・・分かりやすく、煩雑にならないよう(くどくなく)

施設(建築/内装)計画

外観(形態)、機能 緩衝空間  
材料点検(床材、壁材、天井材)とデザイン  
設備計画(衛生機器類—大便器、小便器、手洗ひ器  
明るさと色彩計画、

GOOD TOILET MARK・・・日本トイレ協会として推進

50

### 2020年を見据えて

便器・・・日本人も80～90%は懸掛式(洋風)便器を好む  
・・・ただし絶対的清潔感。(無蓋、非接触)  
最少1個はしゃがみ式(和式)にしておく  
ドライヤー/外国人は手を拭くハンカチを持たない)  
傘、杖掛け女性用用品BOX、授乳、おむつ替えスペース  
ブースのサイズ・・・広め 900×1200 1100×1400 物置台  
パウダールーム(スタンドパウダー)  
多機能トイレ・・・多機能集中から機能分散へ・・・大型ブース  
1400×2000(オストメイト、着換え、おむつ替え、授乳等)

多言語表記  
日本語、英語、中国語(繁体、简体)、韓国語

ピクトグラム  
分かりやすいピクト・・・長々と文字で説明を書いても読まない。  
利用者は急いでいる  
他人のことを考える人は少ない

習慣と宗教  
中国・・・紙を流さない(常識/習慣となっている—配管不備と紙質)  
モスLEM・・・ホースで水を出し、左手で洗う。(コーラン第5節)  
ウォッシュトイレならOK ただ、ウェットティッシュが欲しいも!

# 東京都 奥多摩町

～日本一 観光用公衆トイレがきれいなまちを目指して～

奥多摩町観光産業課 山宮 淳也

## ～奥多摩町について～

「巨樹と清流のまち」奥多摩町は東京都の最北西端に位置し、全域が秩父多摩甲斐国立公園に含まれ、東京の奥座敷として親しまれています。東京都の10分の1に当たる225.53平方キロメートルという広大な面積を有し、東京都の最高峰の雲取山（標高2,017m）を頂点として四方を山々に囲まれ、町の中心には多摩川が西から東へと貫流している緑豊かな水源の町です。町内には、地上1.3mの幹周りが3.0m以上の巨樹が1,017本か確認され、全国で一番巨樹の多い町でもあります。



新緑の奥多摩湖

昭和30年に、古里村、氷川町、小河内村の3か町村が合併し、奥多摩町が誕生し現在に至っています。奥多摩とは昭和のはじめ日本百景選定の際、多摩川上流の美しいところ「奥多摩溪谷」が推奨されたのが発端です。奥多摩町は、水と緑を大切に、人と自然との調和した潤いのある町です。また、山村文化の伝承と生活様式が今でも保存され、郷土芸能の宝庫といわれています。

## ●主な観光スポット

### ①奥多摩湖

都民の水瓶である奥多摩湖は東京都の貴重な水源である奥多摩湖は四季を通じて美しい景色が楽しめます。



雲取山から見た富士山

### ②雲取山

東京都の最高峰で、日本百名山にも選ばれています。富士山や関東平野が一望でき圧巻の絶景が見ることができます。

### ③鳩ノ巣溪谷

多摩川が巨岩、奇岩の間を流れる鳩ノ巣溪谷は、奥多摩随一の溪谷美を誇っています。紅葉の頃はひととき美しく、鳩ノ巣小橋からの眺望は圧巻です。



紅葉の鳩ノ巣溪谷

### ④日原鍾乳洞

関東随一のスケールを誇る鍾乳洞で、都指定天然記念物に指定されています。現在はライトアップされ一層幻想的な空間を感じることができます。

## 【トイレ清掃講習会の開催】

奥多摩町では「日本一観光用公衆トイレがきれいなまち」を目指して、町内観光用公衆トイレの管理、清掃等を行っています。平成28年度に日本トイレ協会に加盟したことで、会員同士の交流を図ることができ、その中で高速道路パーキングのトイレなどの清掃を行っている中日本ハイウェイ・メンテナンス中央株式会社の方々を講師としてお招きし、トイレ清掃方法や、トイレ清掃の質向上のために講習会を開催しました。

トイレ清掃とはやみくもに洗剤や、清掃用具を選び、ただ汚れを落とすということではなく、汚れの質の理解や、タイルの種類、便座の構造などを理解したうえで、洗剤や、用具を選ぶこと、また、一度きれいにしたトイレ、新しいきれいなトイレをどのように維持するのが大切であるということをお伝えいたしました。

## 講習会の様子



## 【観光用公衆トイレ一括清掃のスタート】

平成29年度より新たに、町内に41か所ある観光用公衆トイレのうち、20箇所の観光用公衆トイレを奥多摩総合開発(株)へ一括清掃委託を行いました。業務内容は、クリーンキーパーとして使用頻度の高い観光用公衆トイレを中心に町内の観光トイレ20箇所を巡回しながら清掃を行っています。便器や、手洗い場、床などを用途に合わせた洗剤や、清掃用具を駆使しながらトイレの美化と、清潔さを保ち、またトイレ周辺のゴミ拾いも行っています。



クリーンキーパーの皆さん



清掃車



町内の観光用公衆用トイレは広範囲にわたるため、クリーンキーパーのために、2台の清掃車を購入しました。

車内に洗剤や、掃除道具を収納できる棚をクリーンキーパーが工夫し取り付け、町のパンフレットや、イベントのチラシなどを置くパンフレットラックを取り付け、配布等を行うなど観光案内も行っていただいています。

クリーンキーパー自らが考え、清掃作業だけでなく町のために率先して行っていただいています。

### 【クリーンキーパーの効果】

クリーンキーパーの方たちによる清掃を開始してから、観光客や、町内の方から、「トイレがきれいになった」、「匂いが気にならなくなった」などの声が多く聞かれるようになりました。クリーンキーパーの方たちは、指定されたトイレに行き、支給された洗剤と道具で清掃を行うのではなく、彼らがトイレをもっときれいにするためにはどうしたらよいかを考え、洗剤や、道具を調べ試行錯誤しながら清掃にあたってもらっている点、また、同じ人が同じ場所を掃除していないにもかかわらず、全員が同じ意識を持ちトイレを隅々まできれいにしているからこそ、ムラのない清掃ができ、美化を維持することに繋がり、多くの方にきれいなトイレになったと実感していただけているのだと考えています。



清掃車内の収納棚と、パンフレットラック



隅々まで清掃を行うクリーンキーパー

### 【今後の課題】

今後の課題としては、町内には41か所の観光用公衆トイレがあり、広範囲にトイレが点在しています。そのため、すべての観光用公衆トイレに対して一括清掃委託を出すには、どのように清掃を回ってもらうのかなどの課題があります

また現在、5人のクリーンキーパーに20箇所の清掃を行っていただいております、清掃を1日2名で行っています。5人全員を清掃場所に配置すれば、清掃範囲の拡大効率化が見込まれますが、1つのトイレによって、大きさや、使用頻度により汚れ方に違いがあるため、清掃完了までの時間がかかること、またその分の人件費の問題など、様々な課題の解決が必要となっています。

### 【ボランティア活動】

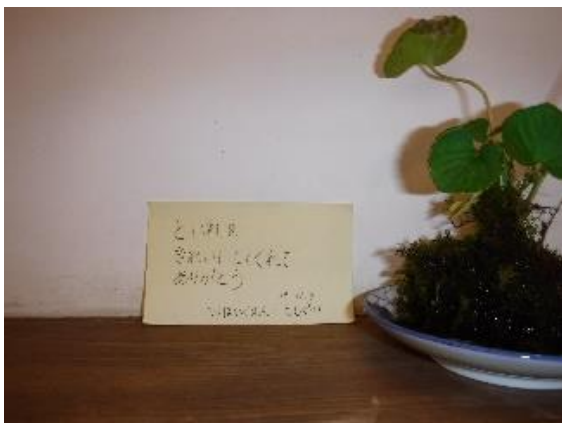
現在、奥多摩のいくつかのトイレにはmini bonsai lifeさんの「苔玉」を設置しております。また、奥多摩駅横にある奥多摩駅観光トイレには、吹き抜けスペースに、苔玉などを使い美しい飾り付けをしていただいております。町内の観光トイレにお越しの際は、「苔玉」をぜひ探してみてください。



奥多摩駅観光トイレの苔玉



奥多摩駅の吹き抜けスペース



観光トイレの苔玉

## トイレ産業展2017に（一社）日本トイレ協会として協賛出展 セミナーも開催

平成29年11月16日～18日 於 東京ビックサイト （一社）日本能率協会主催

- 主催 一般社団法人日本能率協会
- 協賛 一般社団法人日本トイレ協会他
- 期日 平成29年11月15日（木）～17日（金）
- 会場 東京ビックサイト（有明・東京国際展示場）東展示棟
- テーマ 公共・商業施設トイレの課題解決

今年で3年連続出展となったイベントだったが、これまでにない成果を得ることが出来た。登録来場者だけでも隣接の「ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO」と併せて期間中に11,430名にも上り、終日応対に忙殺された。開催前日の搬入、ブースセッティングそして最終日の撤収にいたるまで、隣接ブースに出展された法人会員「日野興業(株)」様の全面的バックアップを頂戴し、所期の目的「日本トイレ協会」の業界に対する認知度アップを達成した。

また最終日の11月17日には当協会のセミナーが開催され、満席の盛況でお客様の反応も抜群であった。なお期間中の運営委員有志並びに日野興業(株)社員の皆様の献身的なご協力に感謝申し上げます次第である。

### ▼ セミナー内容

テーマ 「災害時のトイレはどうする？」～備えあれば憂いなし～  
パネルディスカッション

司会進行	（一社）日本トイレ協会 会長	高橋志保彦氏
パネラー	藤沢市企画政策課 政策研究員	杉淵 武氏
	市川市危機管理室 室長	松丸 多一氏
	(株)総合サービス 代表取締役社長	新妻 普宣氏（当協会運営委員）
	(株)エクセルシア 代表取締役社長	足立 寛一氏（当協会法人会員）
	日野興業(株) 営業企画部 部長	谷本 亘氏（当協会運営委員）



（一社）日本トイレ協会ブース



ブース前の様子



セミナー会場の様子（満席の盛況）

## 運営委員会経過（2017年11月～12月）

（会場 赤坂見附（株）レンタルのニッケン役員会議室）

### ■ 第7回運営委員会 11月6日<月> 17時30分～19時40分 前回議事録確認

- 議題
- 1 トイレ産業展準備進捗状況
  - 2 第33回全国トイレシンポジウムについて
  - 3 グッドトイレ推進運動の進め方について
  - 4 災害用トイレ関連アンケート調査について
  - 5 横浜市からの調査委託の進捗状況について
  - 6 国際交流について

### ■ 第8回運営委員会 12月4日<月> 17時30分～19時00分 前回議事録確認

- 1 第33回全国トイレシンポジウム報告
- 2 トイレ産業展報告
- 3 平成30年度の体制について
- 4 平成30年度定例総会に向けてのスケジュールについて
- 5 国際交流について

## 2018年（平成30年）度 定例総会の日程決まる

**2018年5月19日（土）13時 於（株）レンタルのニッケンBF大会議室**

東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル BF  
（東京メトロ 赤坂見附駅下車3分）

### 編集後記

今回の協会ニュースは、第33回全国トイレシンポジウムの内容が充実しております。参加していない方にとっては、当日の雰囲気を知る良い機会です。概要集もお求めの上、ぜひお楽しみ下さい。

ところで私事ですが、トイレシンポジウムが終わった翌日の11月19日から、韓国に行ってきました。理由は世界トイレ協会の総会に個人参加するためです（注意：事務局がシンガポールにあるWTOではなく、韓国・水原市に事務局があるWTAの方です）。この総会では、世界中から13カ国の人が集い、トイレの不足している地域に対して、公衆トイレを作って差し上げる慈善活動について、話し合いました。またそれ以外では、韓国内の公衆トイレや、今年の2月に開催される平昌（ピョンチャン）オリンピックの会場を見学しました。韓国も公衆トイレはキレイでしたよ。ちなみに11月末には、中国から17名もの団体が日本のトイレ視察のために来日されました。最近では中国やインドでも、トイレ革命が真剣に進められています。つまり、世界中がトイレに熱くなっているのです。「トイレは日本が世界一！」と安心せず、向上心をもって常に邁進すべきと、私は襟を正しました。

（白倉正子／運営委員・アントイレプランナー代表）

一般社団法人 日本トイレ協会

JAPAN TOILET ASSOCIATION

[URL:http://www.toilet-kyoukai.jp](http://www.toilet-kyoukai.jp)

〒112-0003

東京都文京区春日 1-5-3

春日タウンホーム 1F-A

Tel 03-5884-6123

e-mail:jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp





編集後記

一般社団法人 日本トイレ協会

〒112-0003

JAPAN TOILET ASSOCIATION

東京都文京区春日 1 - 5 - 3 春日タウンホーム 1 F ~ A

URL:<http://www.toilet-kyoukai.jp>

Tel 03-5884-6123

e-mail:[jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp](mailto:jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp)

